

地すべり地形分布図の利活用

マルチハザードリスク評価研究部門 山田隆二

Point

- 地すべり地形分布図：過去の地すべりの痕跡を判読
- ハザードポテンシャル評価
- 地すべり地形分布図利活用の促進

研究の領域

予防	応急対応	復旧・復興
予測・情報力		
防災基礎力		

概要

全60集のシリーズとして公開されている防災科学技術研究所「1:50,000地すべり地形分布図」(以下、地すべり地形分布図)は、空中写真を用いて、過去の地すべりの痕跡を判読した主題地形図である。GISの普及や解析の高度化に伴い、電子化された地すべり地形情報は、地形図や地質図同様に山地調査・開発における基礎資料として活用されている。

過去に発生した地すべりが再滑動する事例が多いものの、全てではない。近年の発生事例を収集・分析し、豪雨や地震などの

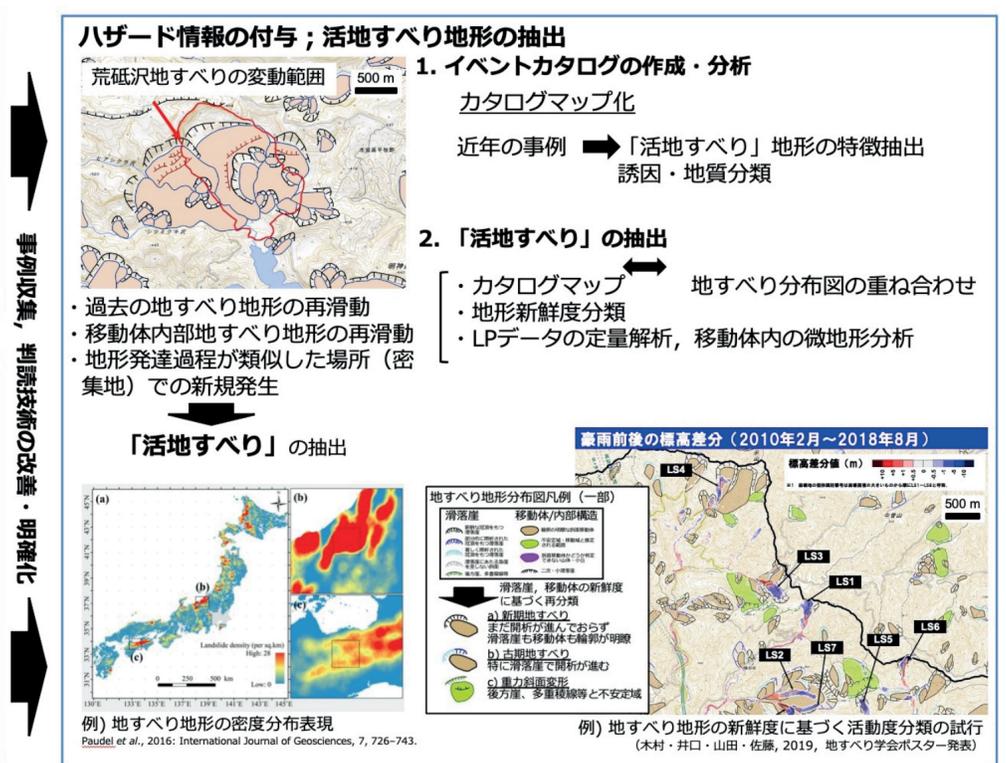
誘因ごとに発生場の特徴を抽出することで、地すべり地形分布図からハザードポテンシャルの高い地形の抽出を目指す。

また、防災科学技術研究所と国土交通省国土技術政策総合研究所・土木研究所がオンライン形式で共催した「2019/2020年度土砂災害予測に関する研究集会」では、地すべり地形分布図を主題として、関連する問題意識を持つ研究者・技術者が一堂に会して議論し、地すべり地形分布図を防災・減災対策に生かすための課題を明らかにし、情報の共有を図った。

今後の展望・方向性

地すべり地形分布図の判読手法の標準化と合わせて、地震による地すべり、誘因が不明確な地すべりの事例収集、カタログ化を進めている。GISデータの更新に関しては、各地すべりの滑落崖-移動体のペア認定作業を行っている。

これらに基づいて、ハザードポテンシャルが高い活地すべりの抽出と特徴の分類を進める。地すべり地形分布図の利活用については、山地調査・開発において基礎資料として用いるユーザーの声を聞きながら促進を図る必要がある。



地すべり地形分布図の高度利用に向けた取り組み

